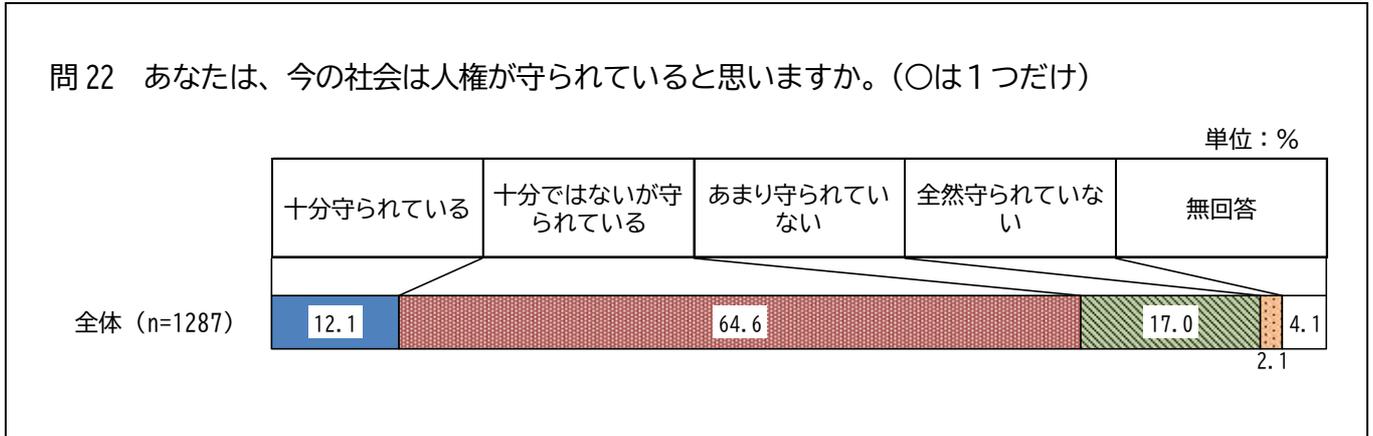


7. 人権意識

(1) 人権が守られているか

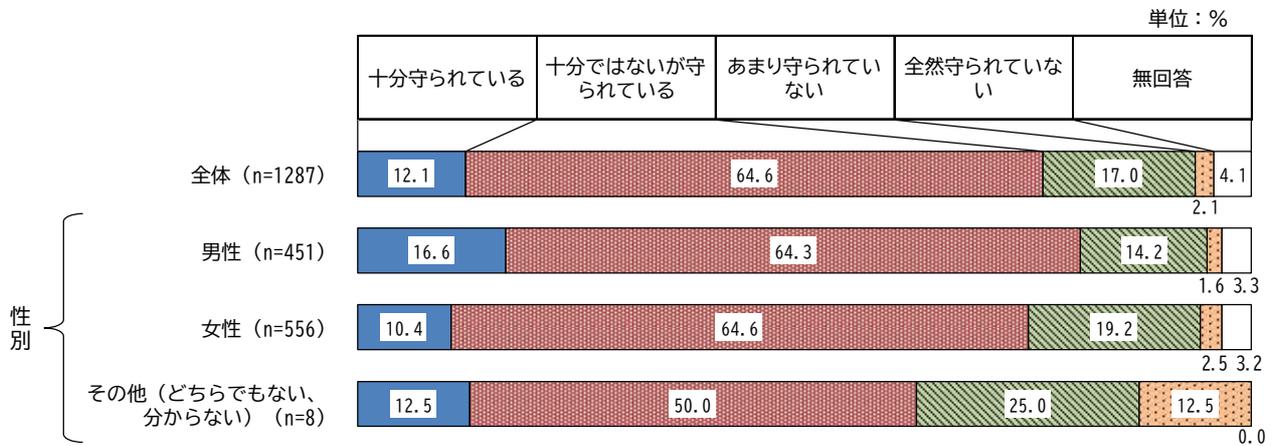
◇「十分ではないが守られている」が6割半ば近く



人権が守られているか聞いたところ、「十分ではないが守られている」(64.6%)が6割半ば近くと最も高く、次いで「あまり守られていない」(17.0%)、「十分守られている」(12.1%)と続いている。

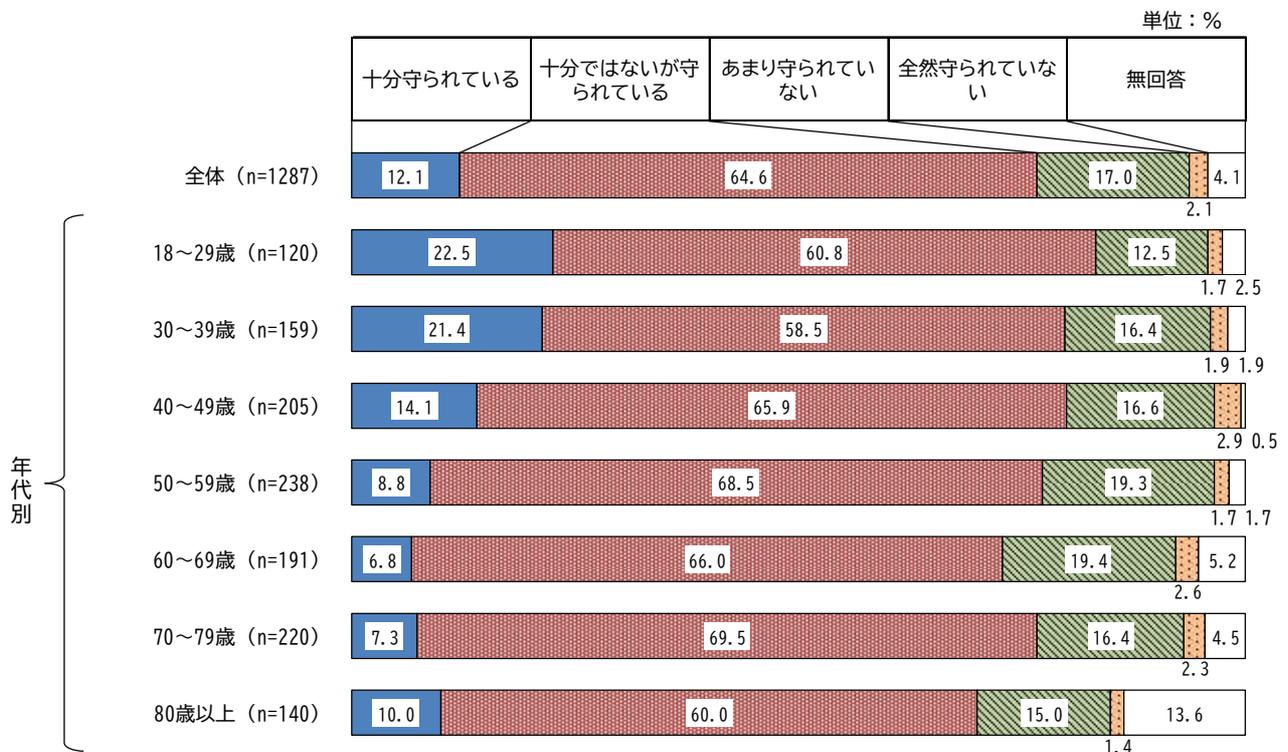
性別でみると、「十分守られている」では、男性（16.6%）が女性（10.4%）を6.2ポイント上回っている。また、「あまり守られていない」では、女性（19.2%）が男性（14.2%）を5.0ポイント上回っている。

人権が守られているか 性別



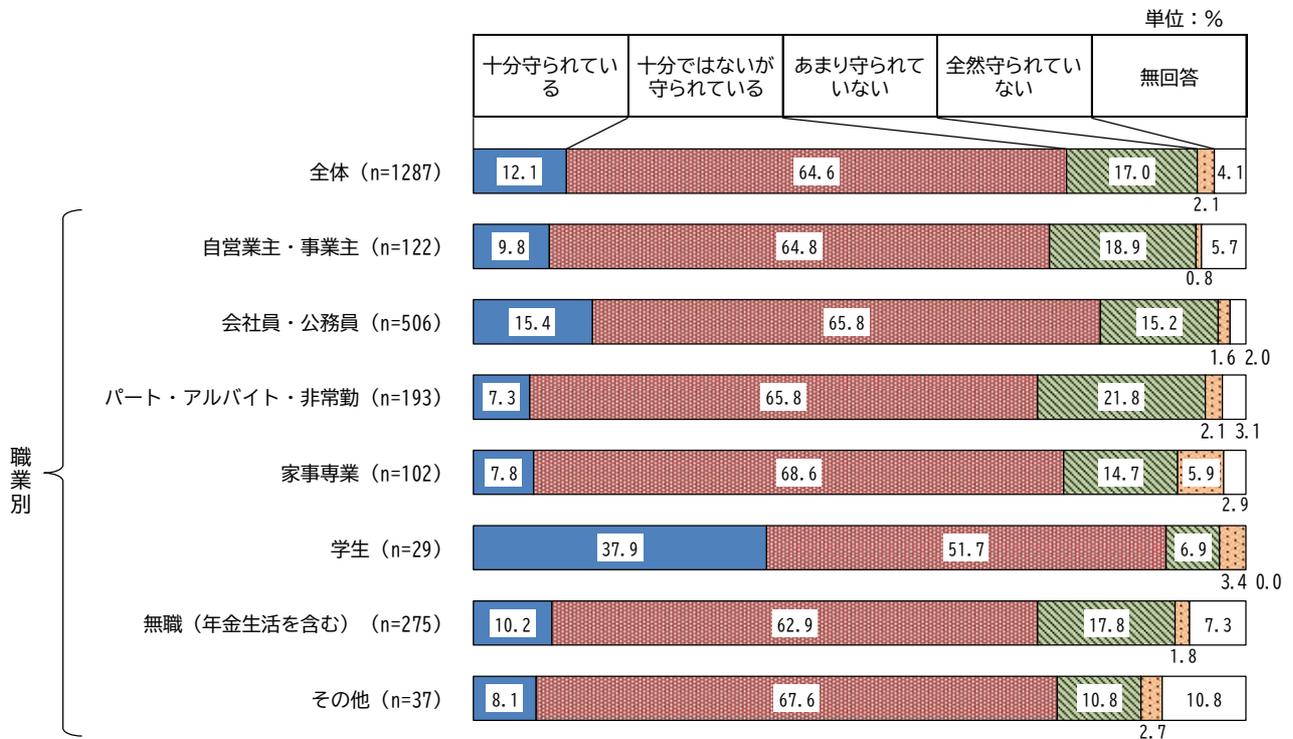
年代別でみると、「十分守られている」では、18～29歳（22.5%）、30～39歳（21.4%）が2割以上と高くなっている。また、「あまり守られていない」では、60～69歳（19.4%）、50～59歳（19.3%）が2割弱と高くなっている。

人権が守られているか 年代別



職業別でみると、「十分守られている」では、会社員・公務員（15.4%）で1割半ばと高くなっている。また、「あまり守られていない」では、パート・アルバイト・非常勤（21.8%）が2割強と高く、「全然守られていない」では、家事専業（5.9%）が高くなっている。

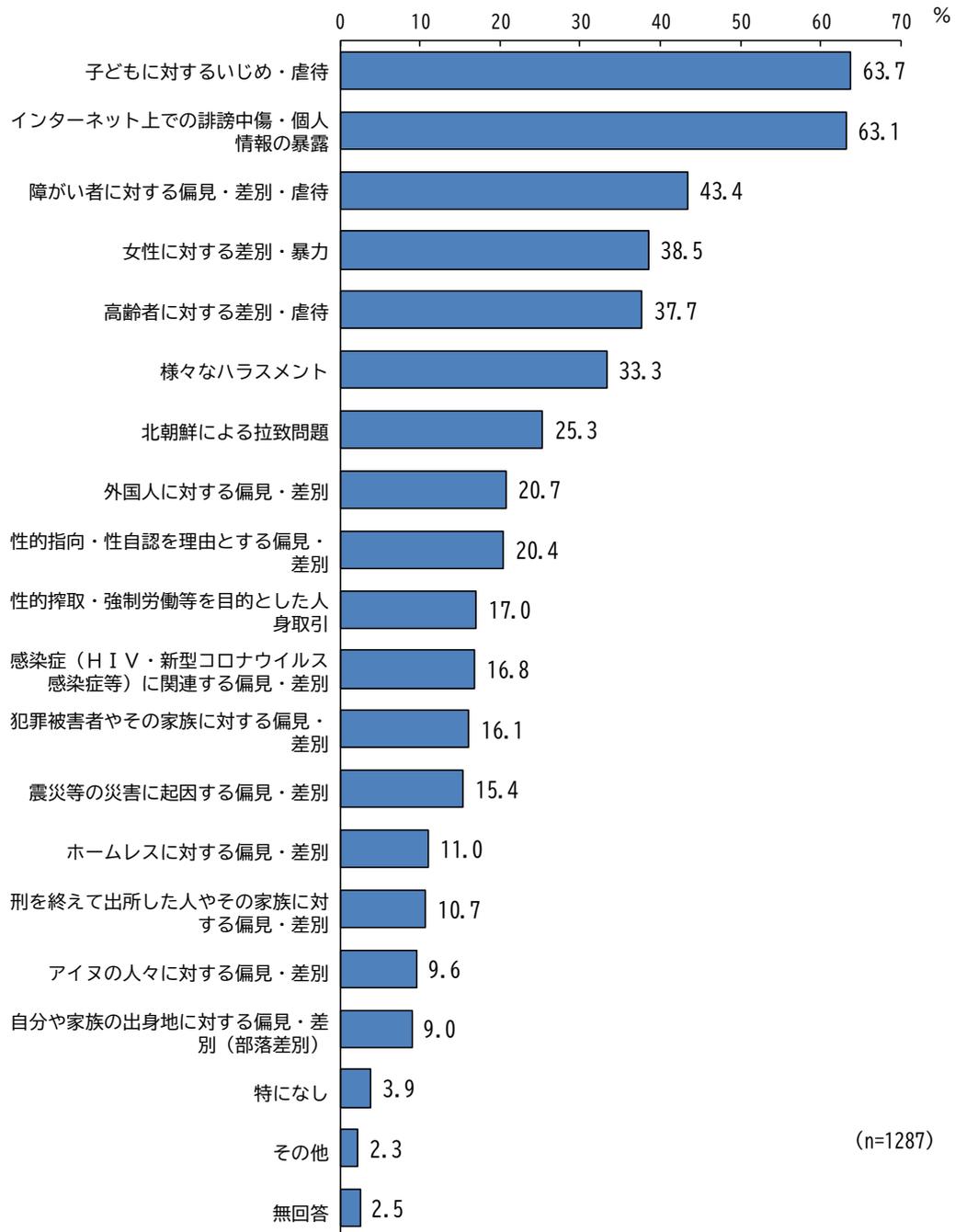
人権が守られているか 職業別



(2) 関心のある人権問題

◇「子どもに対するいじめ・虐待」が6割半ば近く

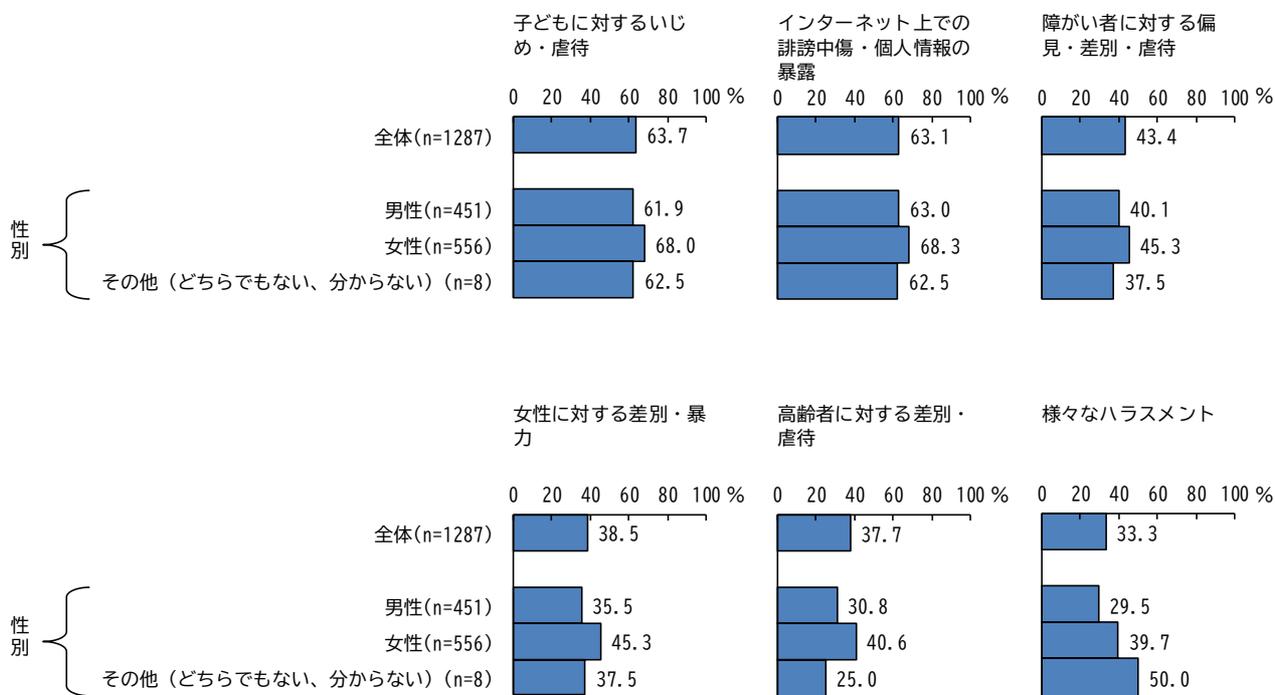
問 23 あなたが、関心があり、解消に向けて取り組むべきと考える人権問題は何ですか。
(○はいくつでも)



関心のある人権問題について聞いたところ、「子どもに対するいじめ・虐待」(63.7%)が6割半ば近くと最も高く、次いで「インターネット上での誹謗中傷・個人情報の暴露」(63.1%)、「障がい者に対する偏見・差別・虐待」(43.4%)と続いている。

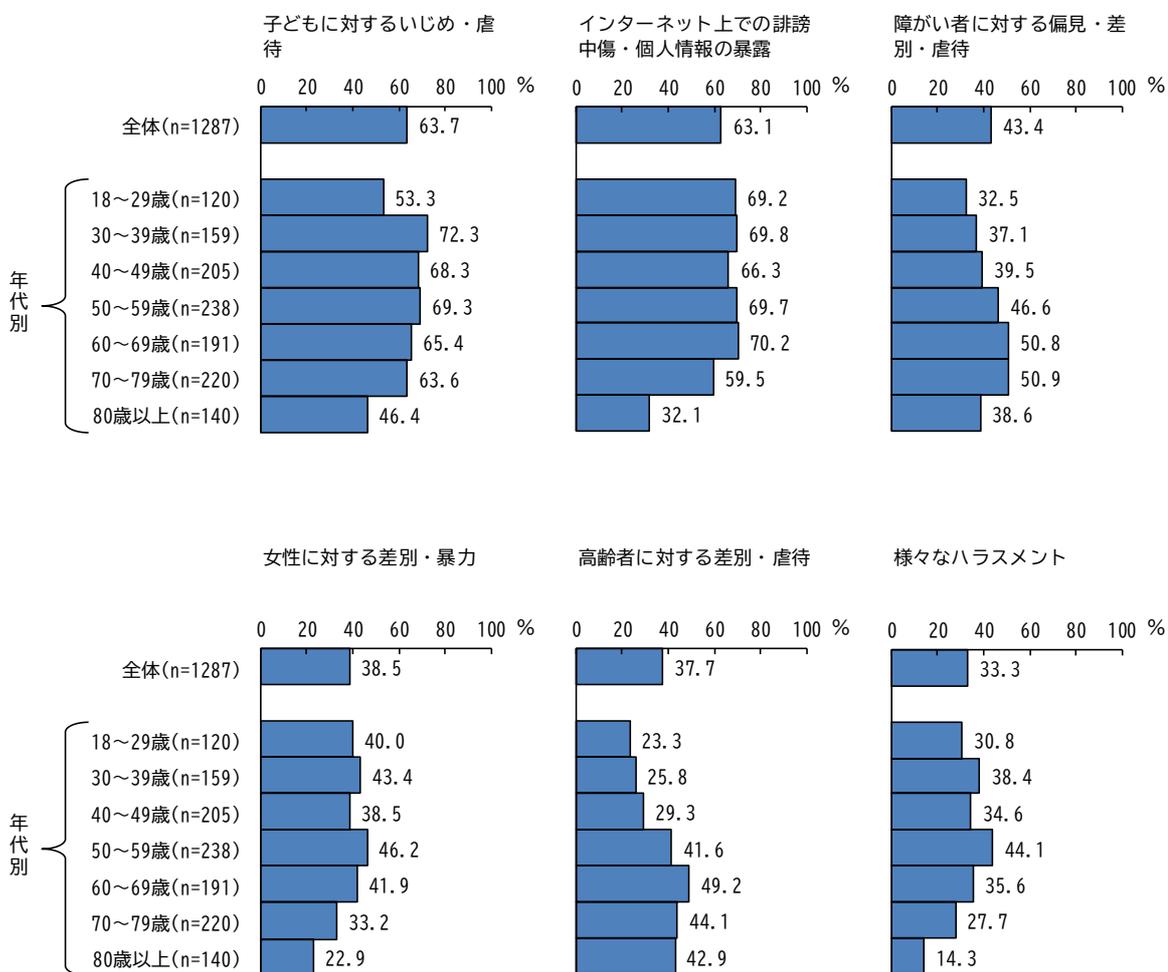
上位6項目を性別で見ると、「女性に対する差別・暴力」では、女性（45.3%）が男性（35.5%）を9.8ポイント上回っている。また、「高齢者に対する差別・虐待」では、女性（40.6%）が男性（30.8%）を9.8ポイント上回っている。

関心のある人権問題（上位6項目） 性別



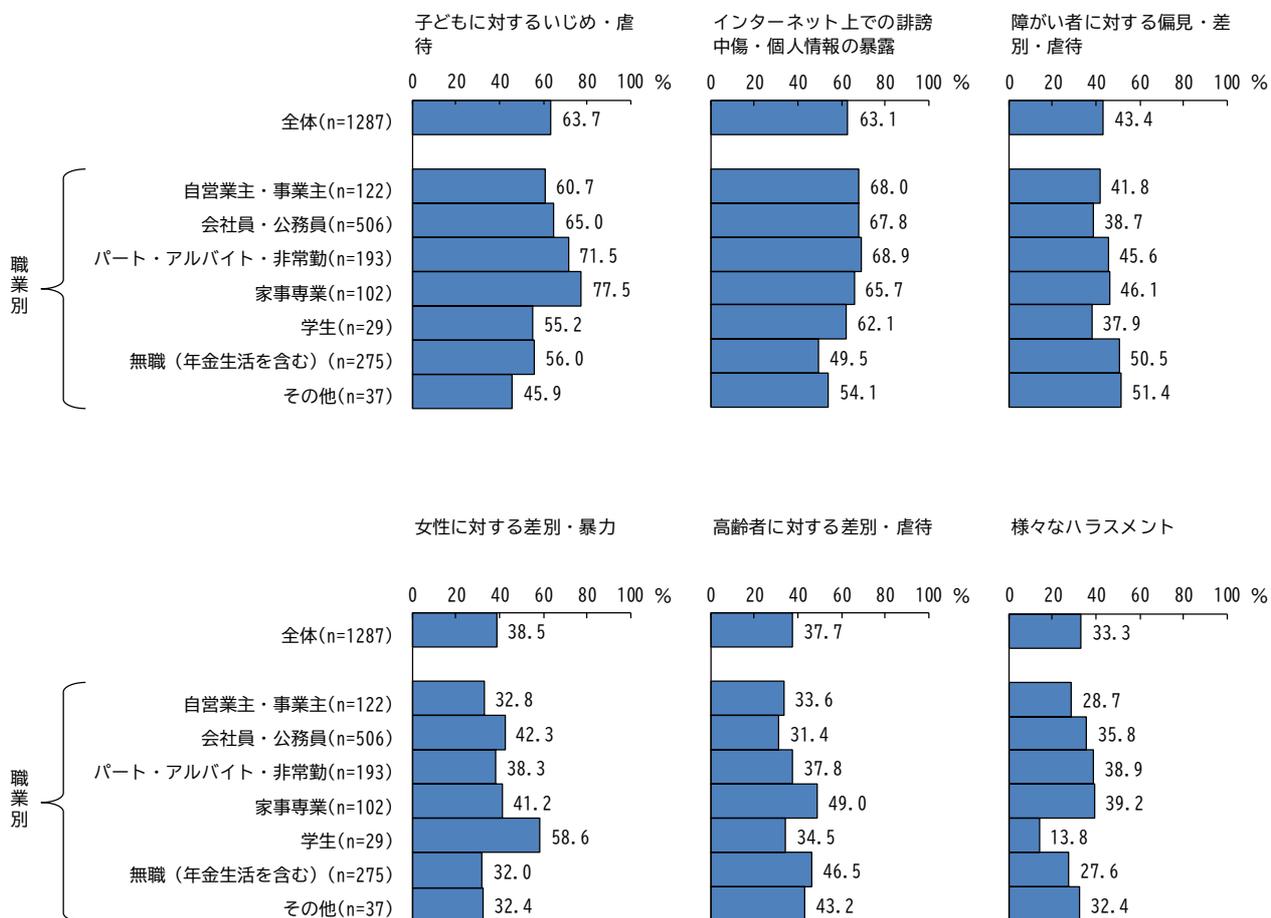
上位6項目を年代別で見ると、「子どもに対するいじめ・虐待」では、30～39歳（72.3%）が7割強と高くなっている。また、「高齢者に対する差別・虐待」では、60～69歳（49.2%）が5割弱と高くなっている。

関心のある人権問題（上位6項目） 年代別



上位6項目を職業別で見ると、「子どもに対するいじめ・虐待」では、家事専業（77.5%）が7割半ばを超えて高くなっている。また、「高齢者に対する差別・虐待」では、家事専業（49.0%）と無職（年金生活を含む）（46.5%）が4割半ばを超えて高くなっている。

関心のある人権問題（上位6項目） 職業別



(3) 人権を侵害された経験

◇「どちらも経験がない」が5割半ばを超える

問 24 これまでに自分が人権を侵害された経験や、身の周りで他の人が人権侵害を受けていることを見聞きした経験はありますか。(○は1つだけ)

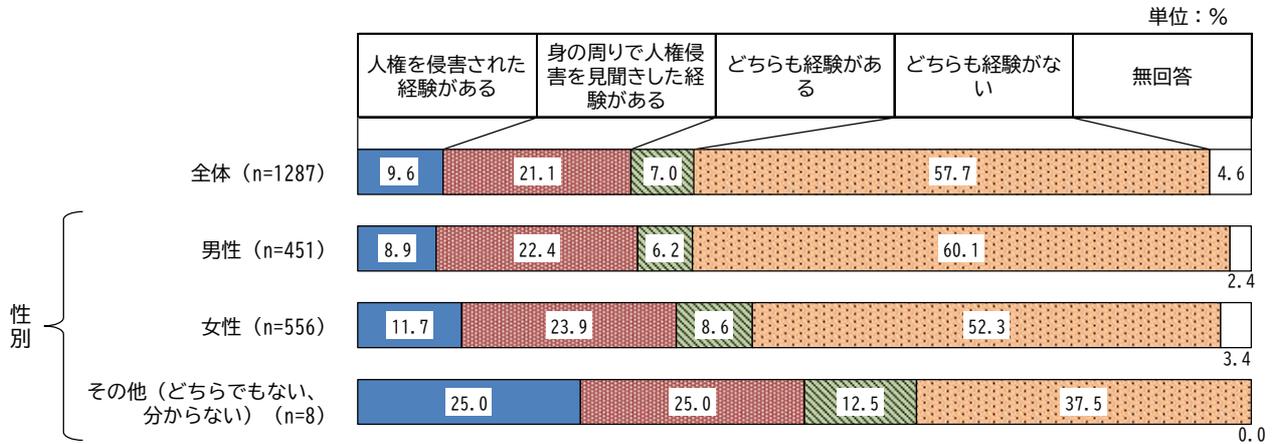


人権を侵害された経験の有無について聞いたところ、「どちらも経験がない」(57.7%)が5割半ばを超えて最も高く、次いで「身の周りで人権侵害を見聞きした経験がある」(21.1%)、「人権を侵害された経験がある」(9.6%)と続いている。

また、「人権を侵害された経験がある」と「どちらも経験がある」をあわせた人権を侵害された経験がある人の総数(16.6%)は、1割半ばを超えている。

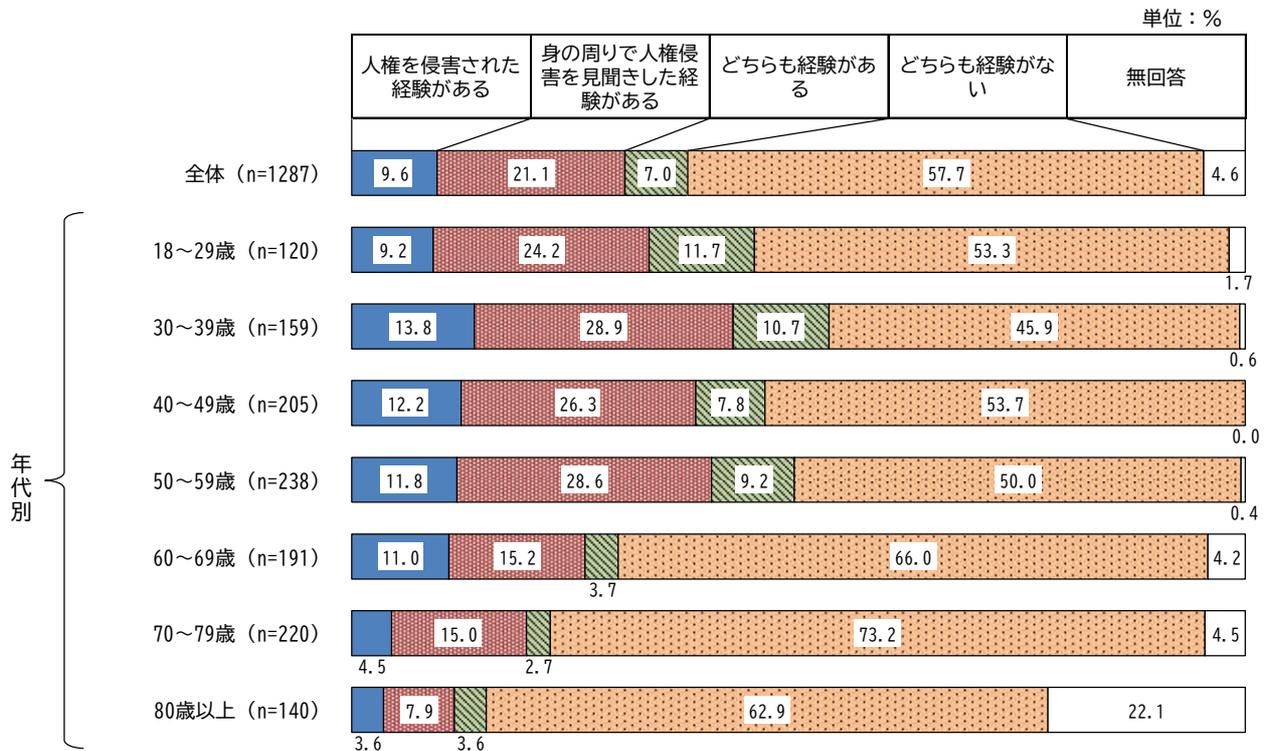
性別でみると、「どちらも経験がない」では、男性（60.1%）が女性（52.3%）を7.8ポイント上回っている。

人権を侵害された経験 性別



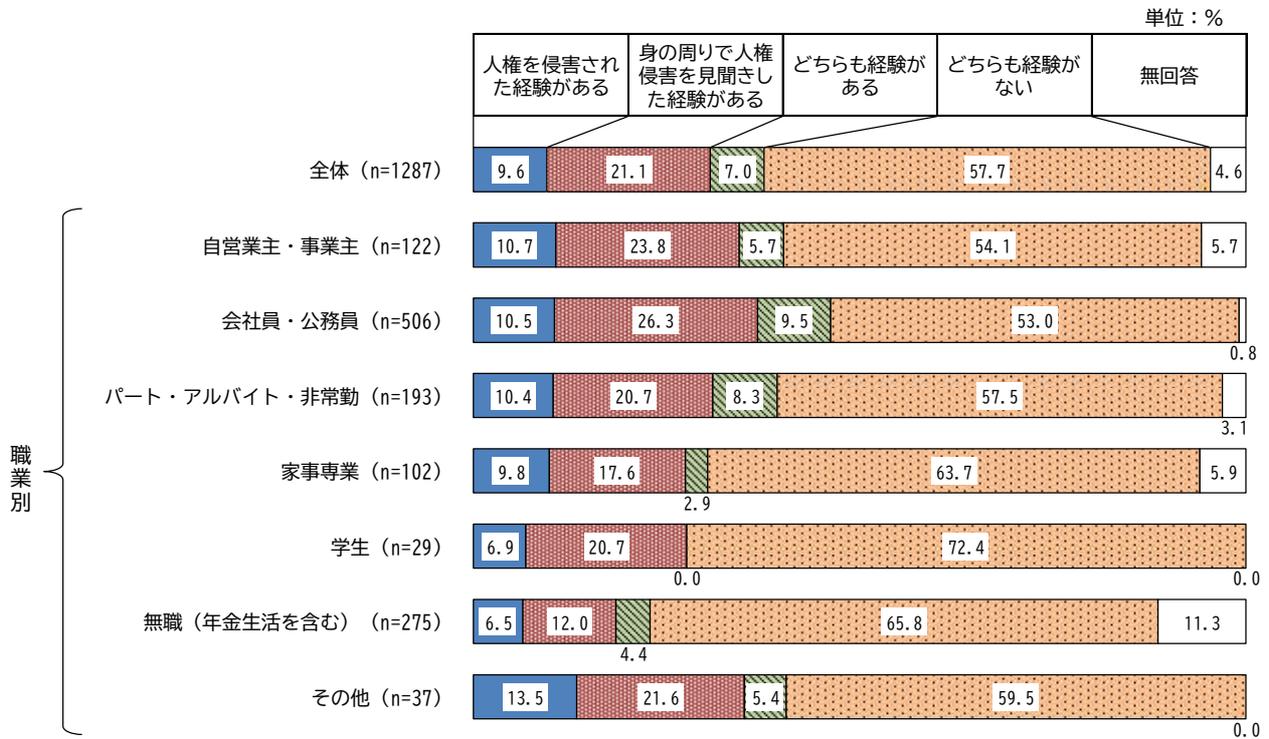
年代別でみると、「身の周りで人権侵害を見聞きした経験がある」では、30～59歳で2割半ばを超えて高くなっている。また、「人権を侵害された経験がある」と「どちらも経験がある」をあわせた人権を侵害された経験がある人の総数は、18～59歳で2割を超えている。

人権を侵害された経験 年代別



職業別でみると、「身の周りで人権侵害を見聞きした経験がある」では、会社員・公務員（26.3%）が2割半ばを超えて高くなっている。

人権を侵害された経験 職業別

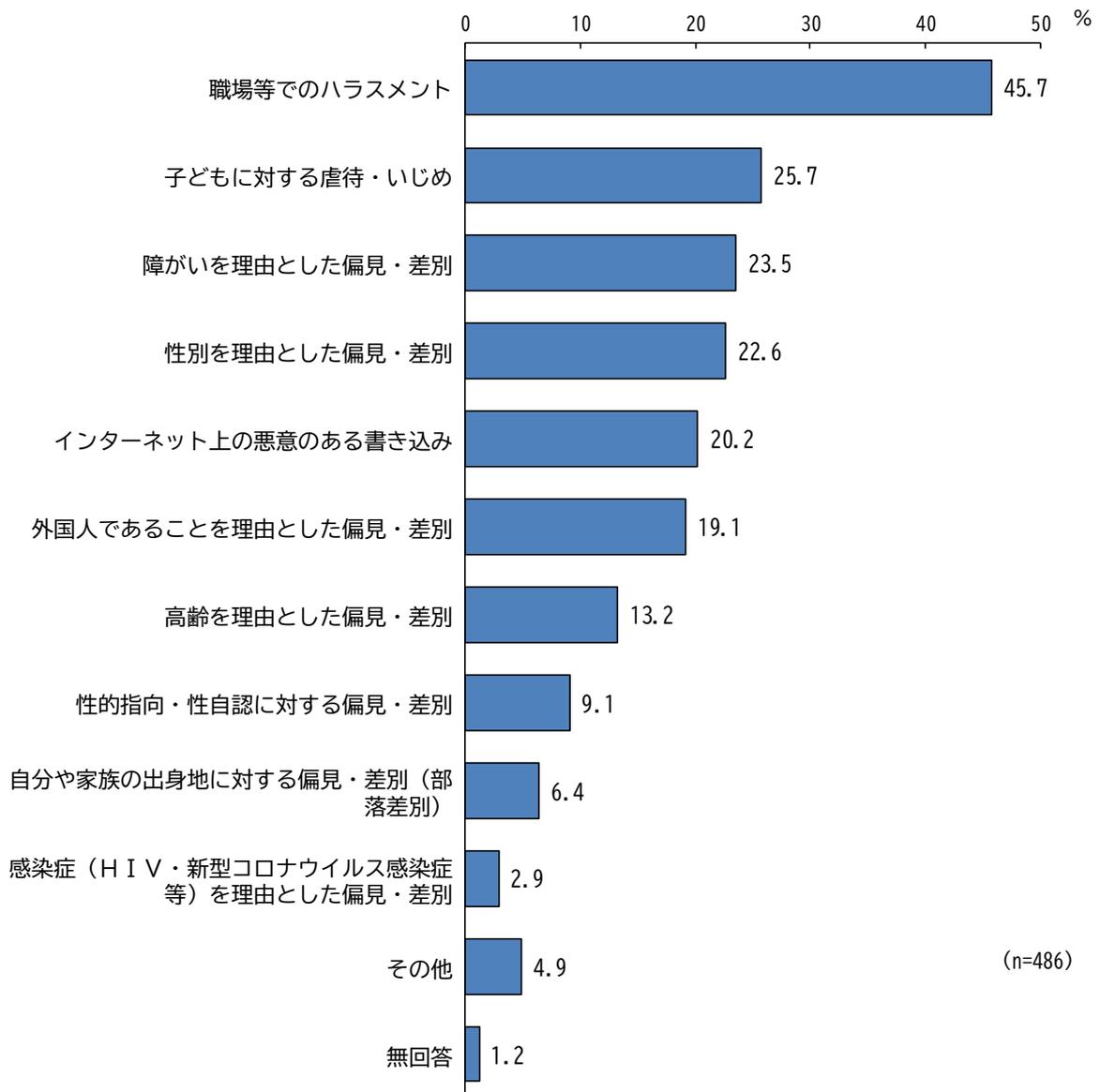


(3-1) どのような人権侵害だったか

◇「職場等でのハラスメント」が4割半ば

問 24-1 (問 24 で「1」、「2」、「3」とお答えの方に伺います)

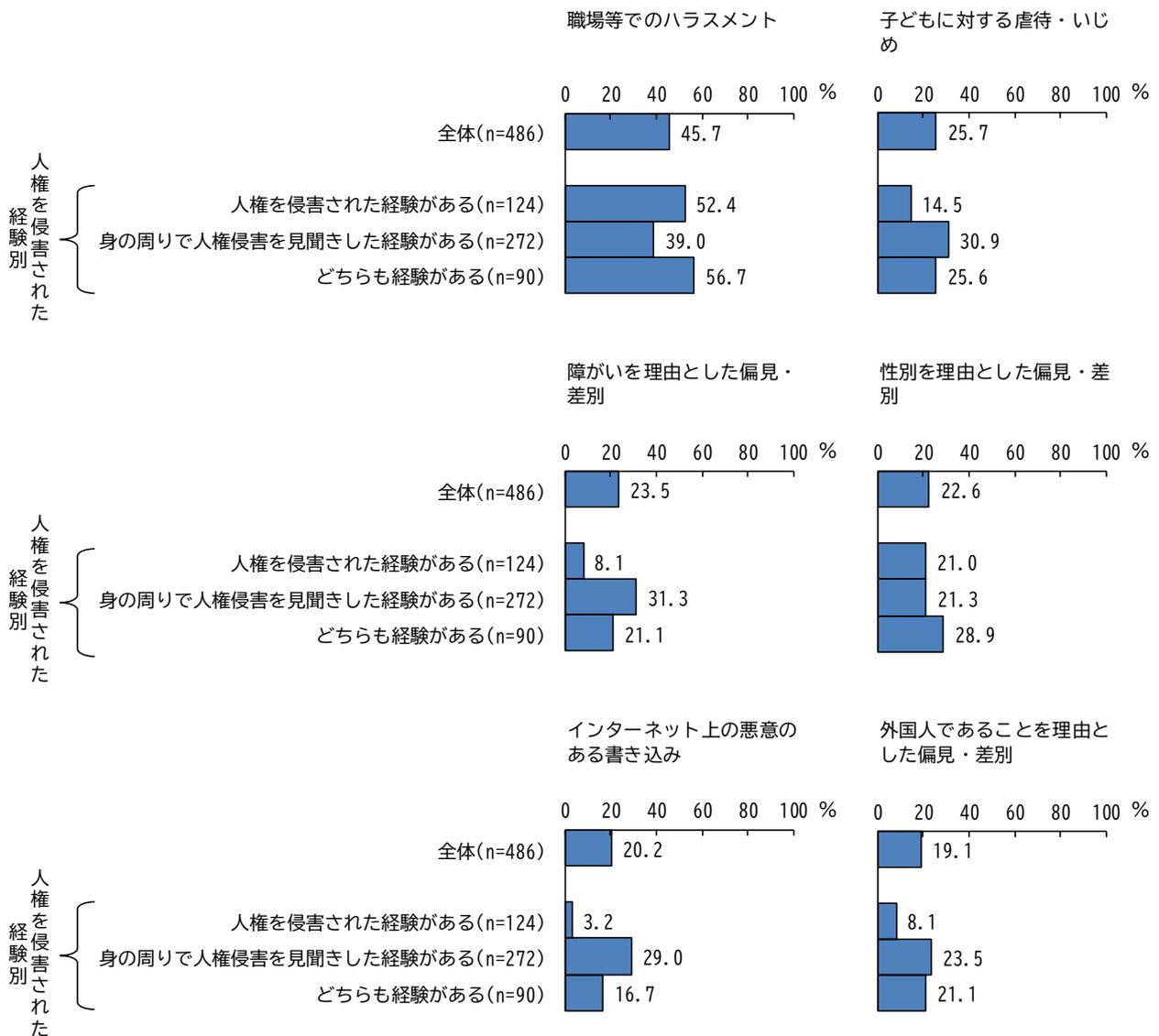
以下のうち、どのような人権侵害でしたか(問 24 で「3」を選んだ方は、あなたが経験した人権侵害についてお答えください)(〇はいくつでも)



どのような人権侵害だったか聞いたところ、「職場等でのハラスメント」(45.7%)が4割半ばと最も高く、次いで「子どもに対する虐待・いじめ」(25.7%)、「障がいを理由とした偏見・差別」(23.5%)と続いている。

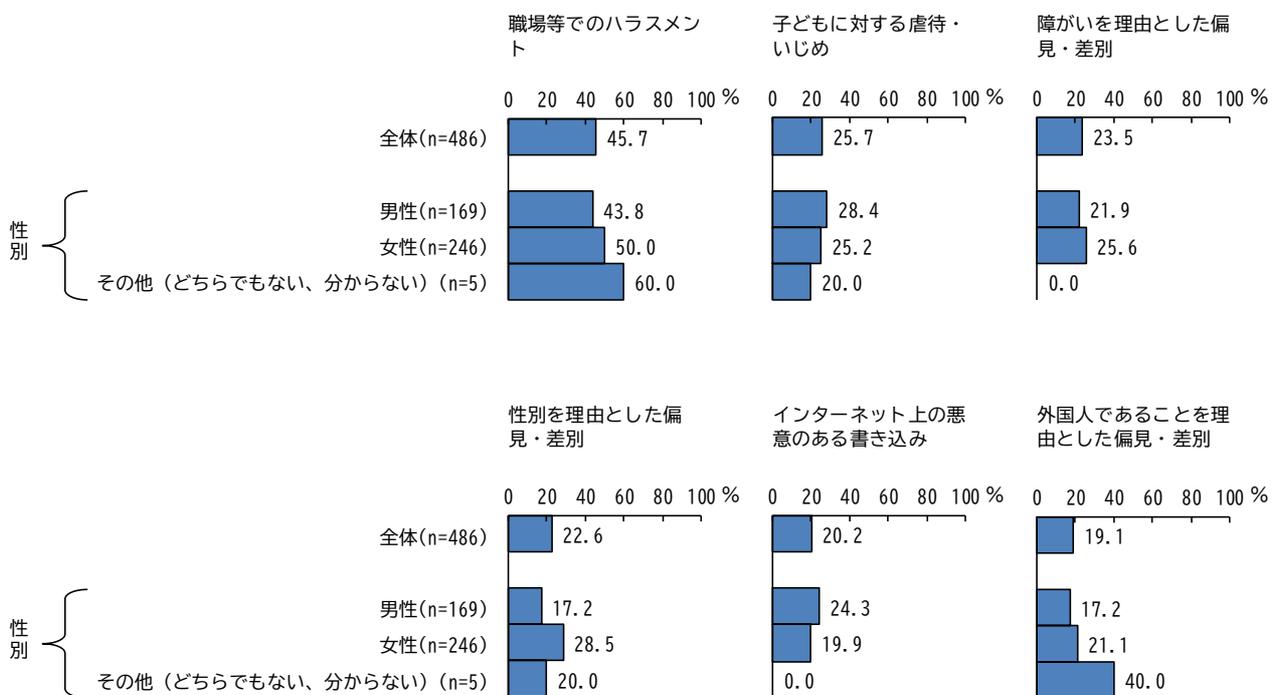
上位6項目を人権を侵害された経験別でみると、「職場等でのハラスメント」では、どちらも経験がある（56.7%）と人権を侵害された経験がある（52.4%）が5割以上と高くなっている。また、「障がいを理由とした偏見・差別」では、身の周りで人権侵害を見聞きした経験がある（31.3%）が3割強と高くなっている。

どのような人権侵害だったか（上位6項目） 人権を侵害された経験別



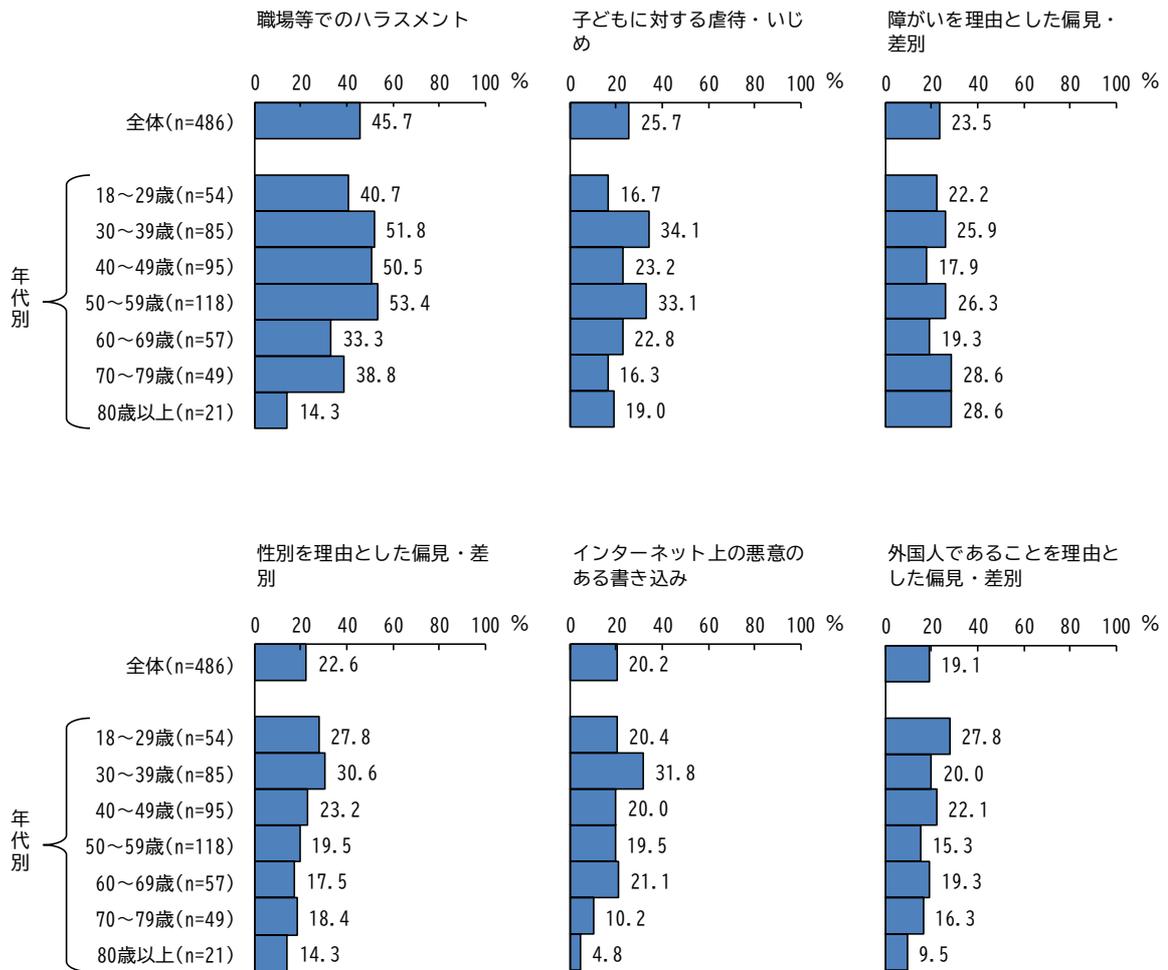
上位6項目を性別で見ると、「性別を理由とした偏見・差別」では、女性（28.5%）が男性（17.2%）を11.3ポイント上回っている。また、「職場等でのハラスメント」では、女性（50.0%）が男性（43.8%）を6.2ポイント上回っている。

どのような人権侵害だったか（上位6項目） 性別



上位6項目を年代別で見ると、「職場等でのハラスメント」では、30～59歳で5割を超えて高くなっている。また、「子どもに対する虐待・いじめ」では、30～39歳（34.1%）と50～59歳（33.1%）が3割半ば近くと高く、「性別を理由とした偏見・差別」では、30～39歳（30.6%）が3割と高くなっている。

どのような人権侵害だったか（上位6項目） 年代別



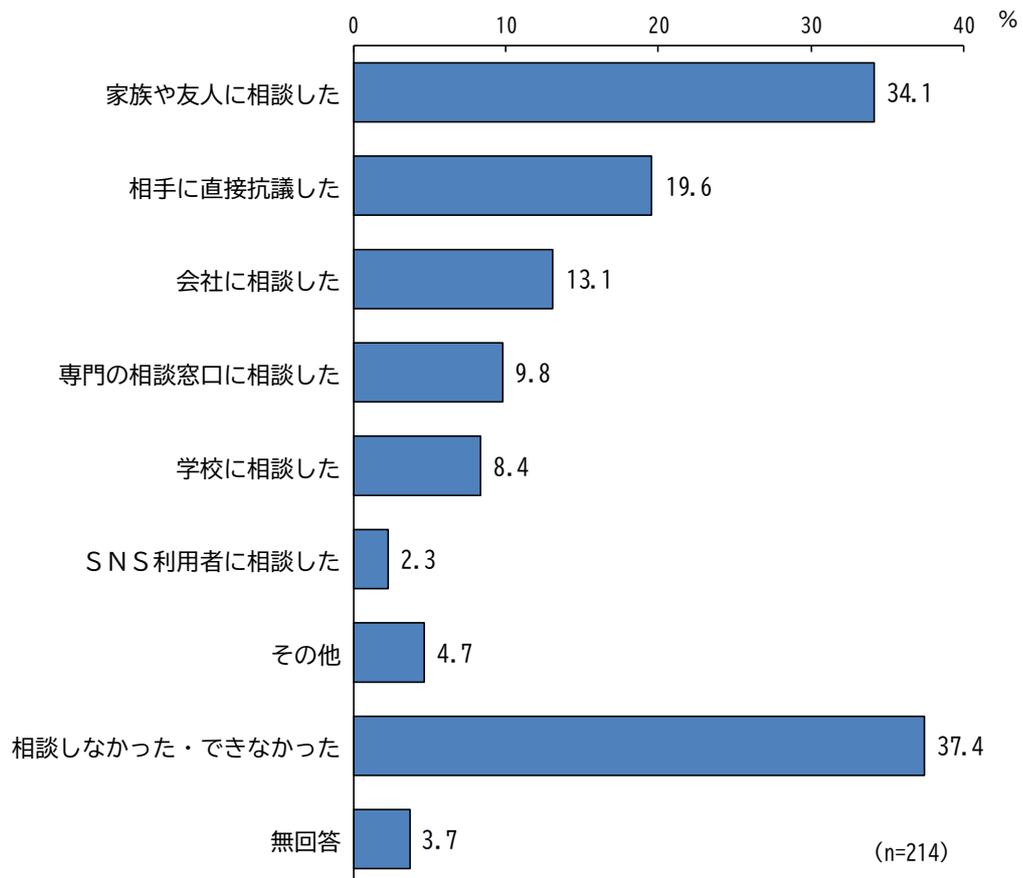
(3-2) 人権侵害の対応

◇「相談しなかった・できなかった」が3割半ばを超える

問 24-2 (問 24 で「1」、「3」とお答えの方に伺います)

人権を侵害されることがあったとき、あなたはどのように対応しましたか。

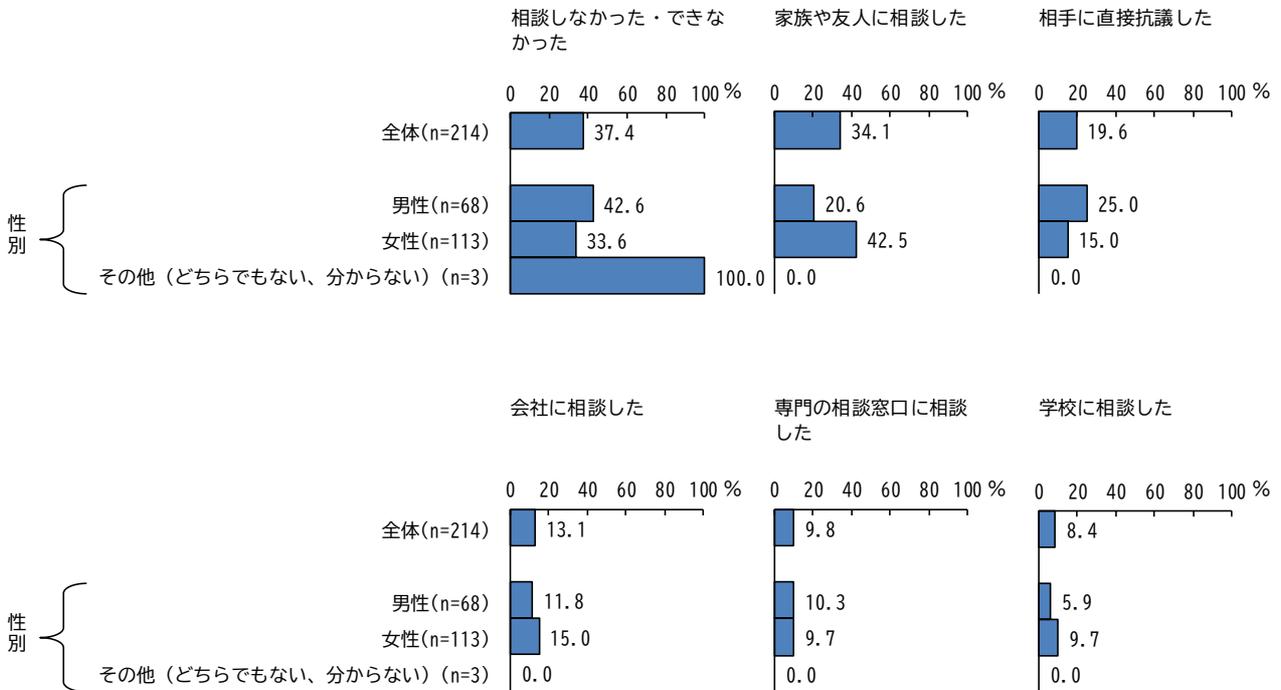
(〇はいくつでも)



人権侵害の対応について聞いたところ、「相談しなかった・できなかった」(37.4%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「家族や友人に相談した」(34.1%)、「相手に直接抗議した」(19.6%)と続いている。

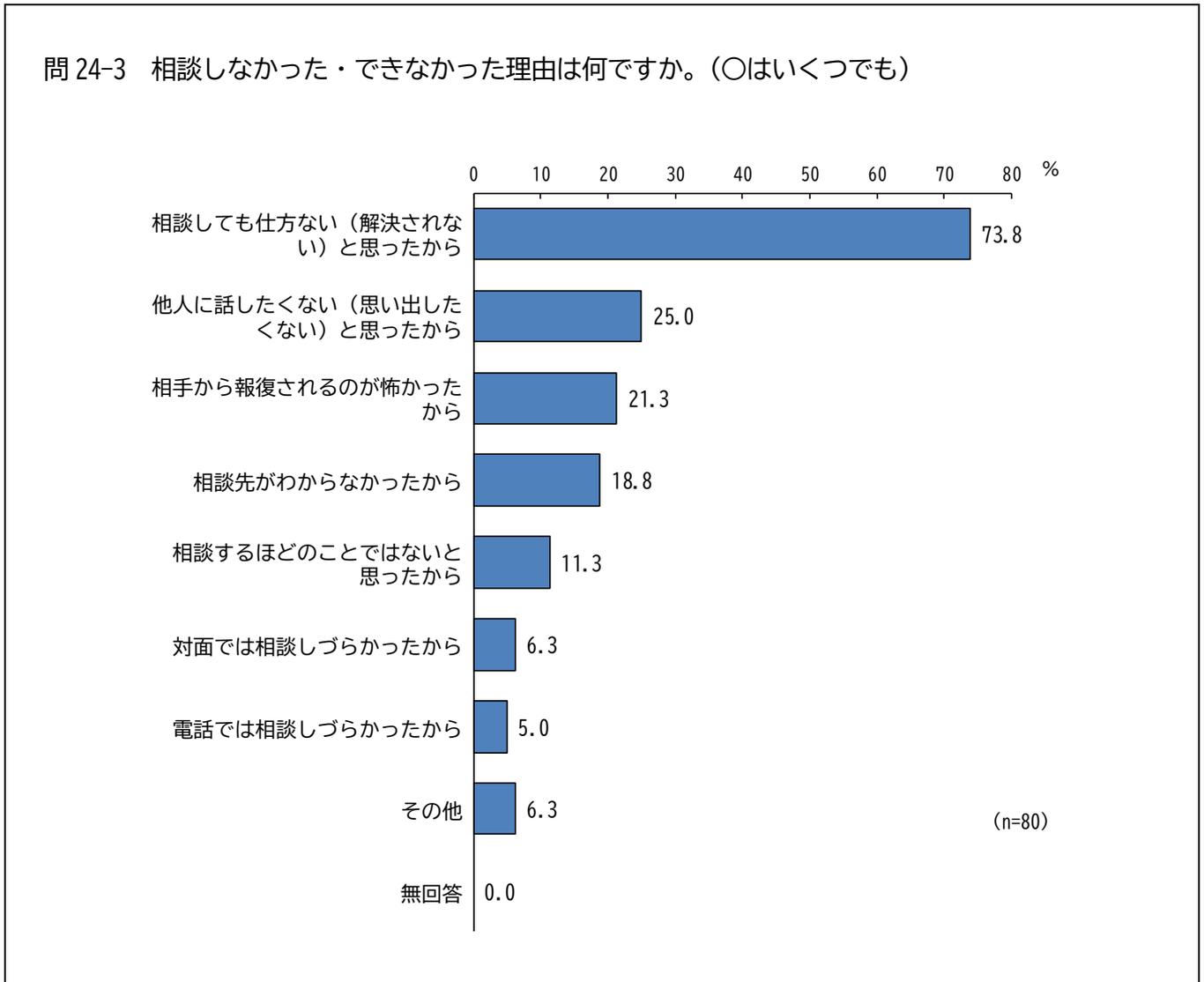
性別でみると、「家族や友人に相談した」では、女性（42.5%）が男性（20.6%）を21.9ポイント上回っている。また、「相手に直接抗議した」では、男性（25.0%）が女性（15.0%）を10.0ポイント上回っている。

人権侵害の対応 性別



(3-3) 相談できなかった理由

◇「相談しても仕方ない（解決されない）と思ったから」が7割半ば近く

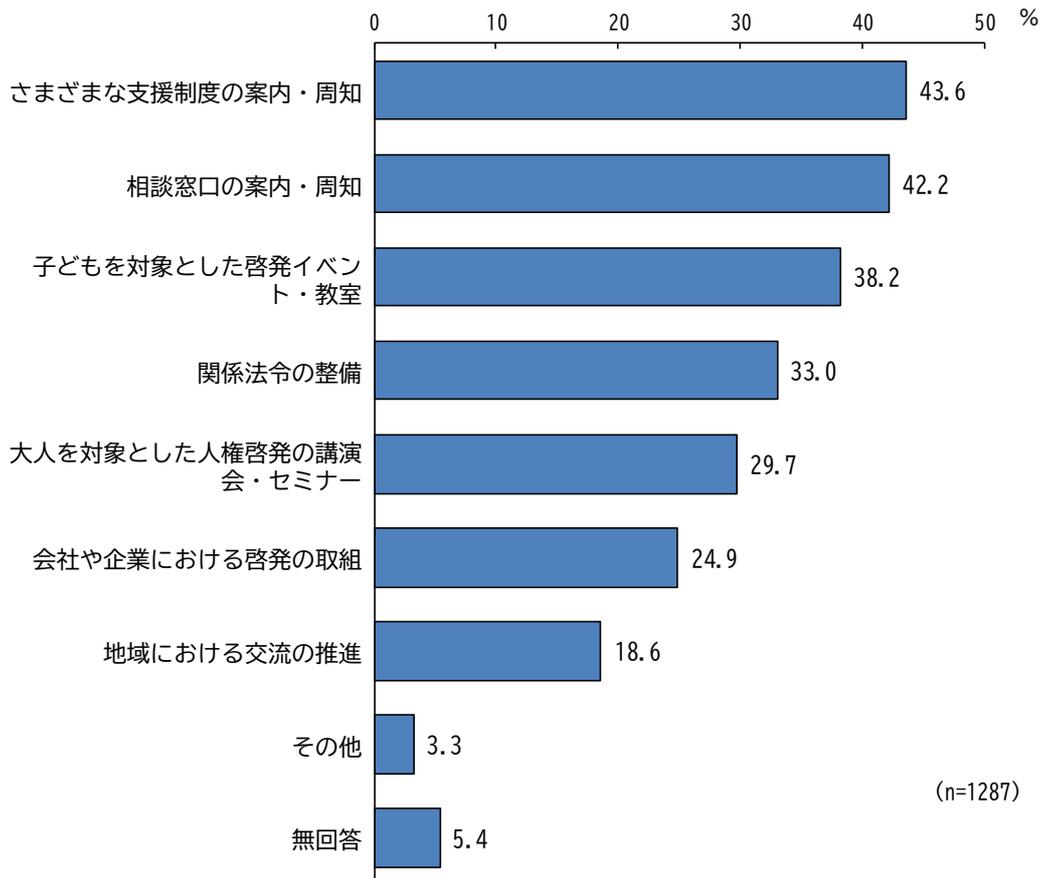


相談できなかった理由について聞いたところ、「相談しても仕方ない（解決されない）と思ったから」（73.8%）が7割半ば近くと最も高く、次いで「他人に話したくない（思い出したくない）と思ったから」（25.0%）、「相手から報復されるのが怖かったから」（21.3%）と続いている。

(4) 多様性を認め合う社会への取組

◇「さまざまな支援制度の案内・周知」が4割半ば近く

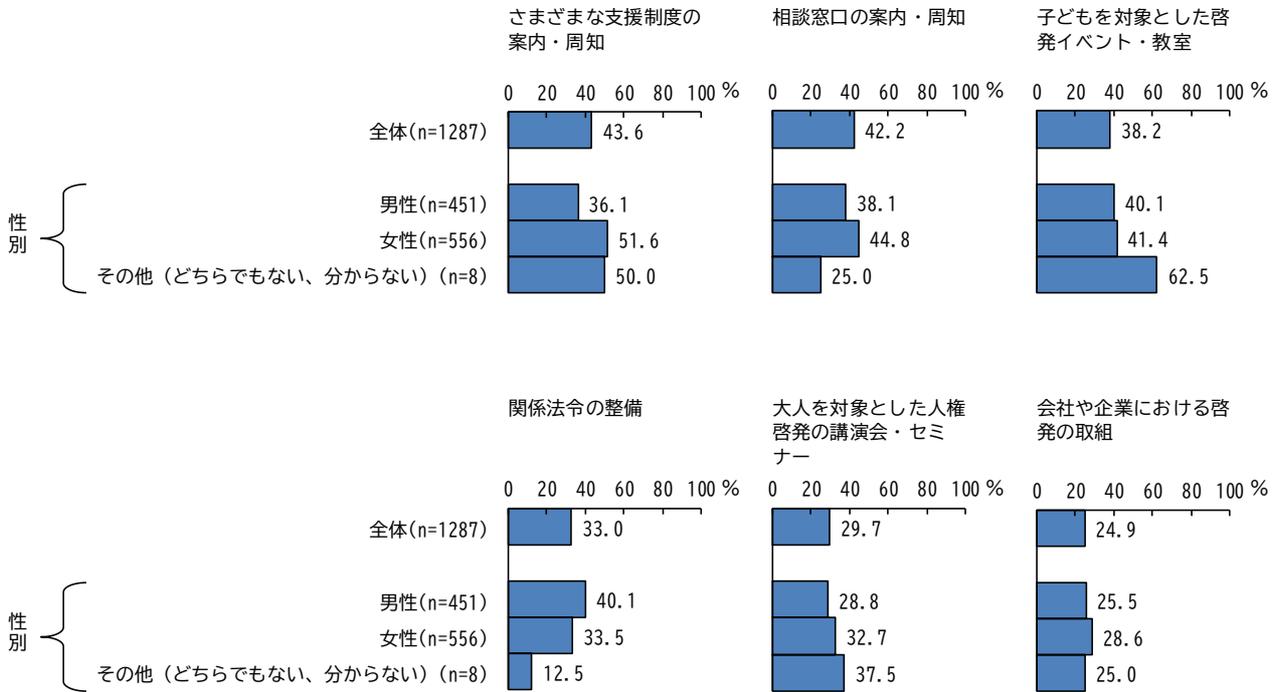
問 25 すべての人の人権が尊重され、多様性を認め合う社会を実現するためには、どのような事業や取組が必要だと考えますか。(〇はいくつでも)



多様性を認め合う社会への取組について聞いたところ、「さまざまな支援制度の案内・周知」(43.6%)が4割半ば近くと最も高く、次いで「相談窓口の案内・周知」(42.2%)、「子どもを対象とした啓発イベント・教室」(38.2%)と続いている。

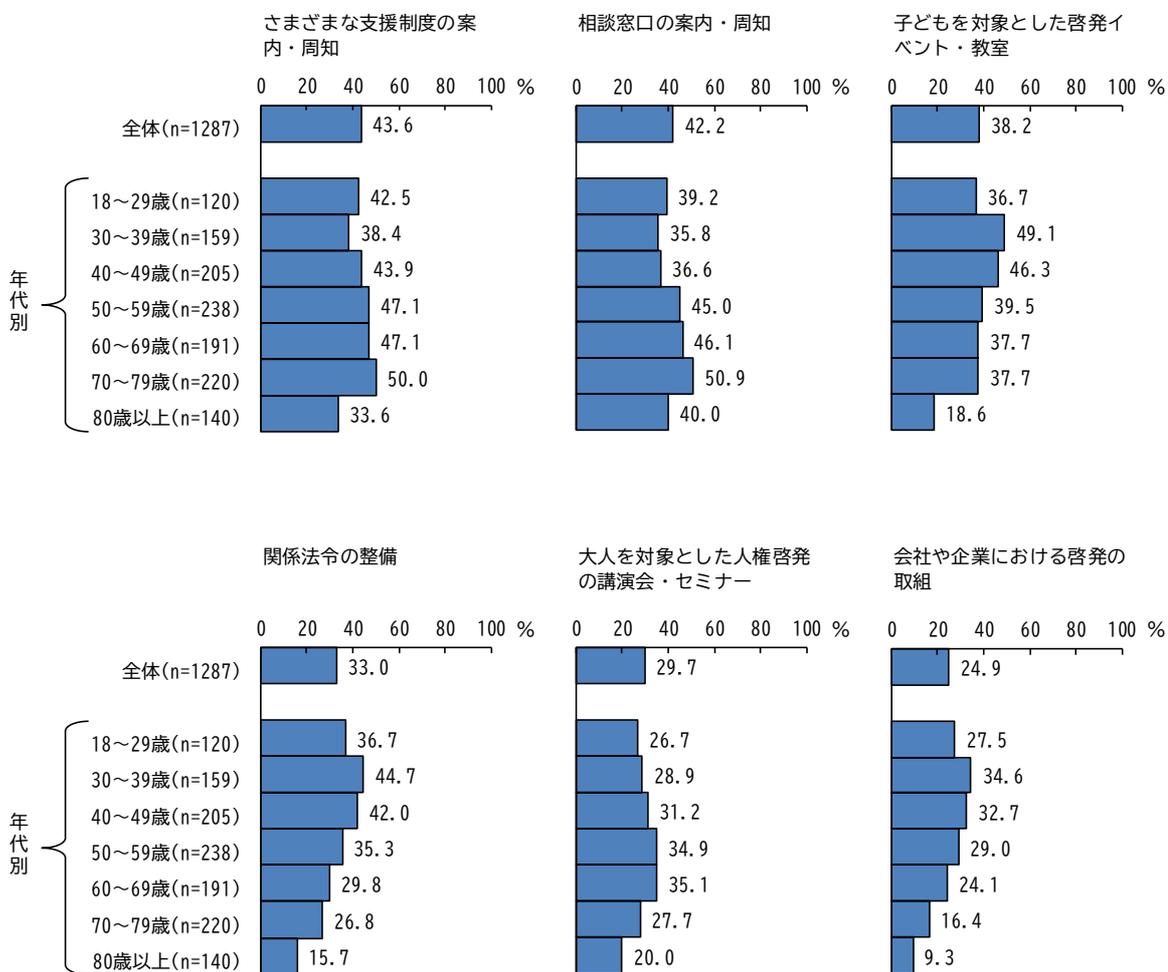
上位6項目を性別で見ると、「さまざまな支援制度の案内・周知」では、女性（51.6%）が男性（36.1%）を15.5ポイント上回っている。

多様性を認め合う社会への取組（上位6項目） 性別



上位6項目を年代別で見ると、「関係法令の整備」では、30～49歳が4割以上と高くなっている。また、「子どもを対象とした啓発イベント・教室」では、30～49歳が4割半ばを超えて高くなっている。

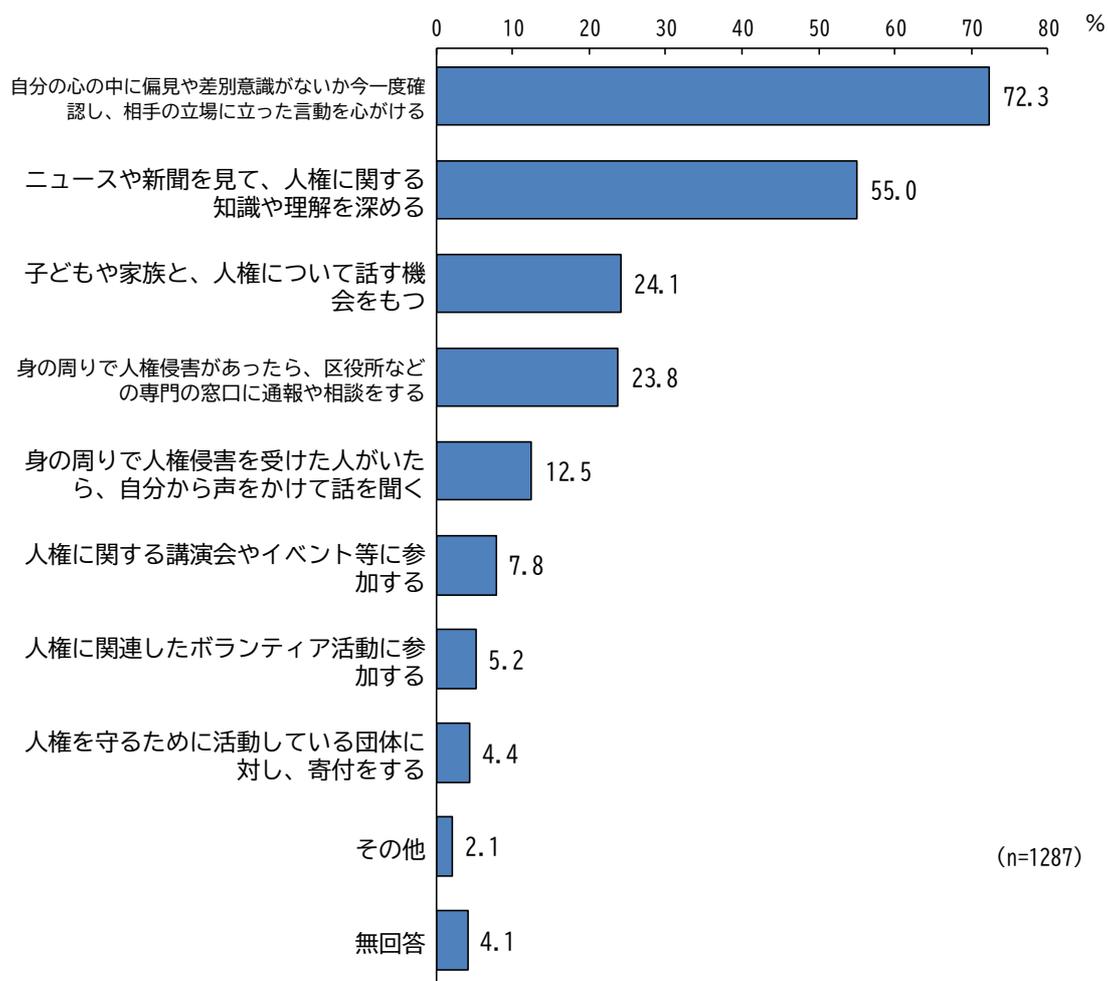
多様性を認め合う社会への取組（上位6項目） 年代別



(5) 多様性を認め合う社会へ自身ができること

◇「自分の心の中に偏見や差別意識がないか今一度確認し、相手の立場に立った言動を心がける」が7割強

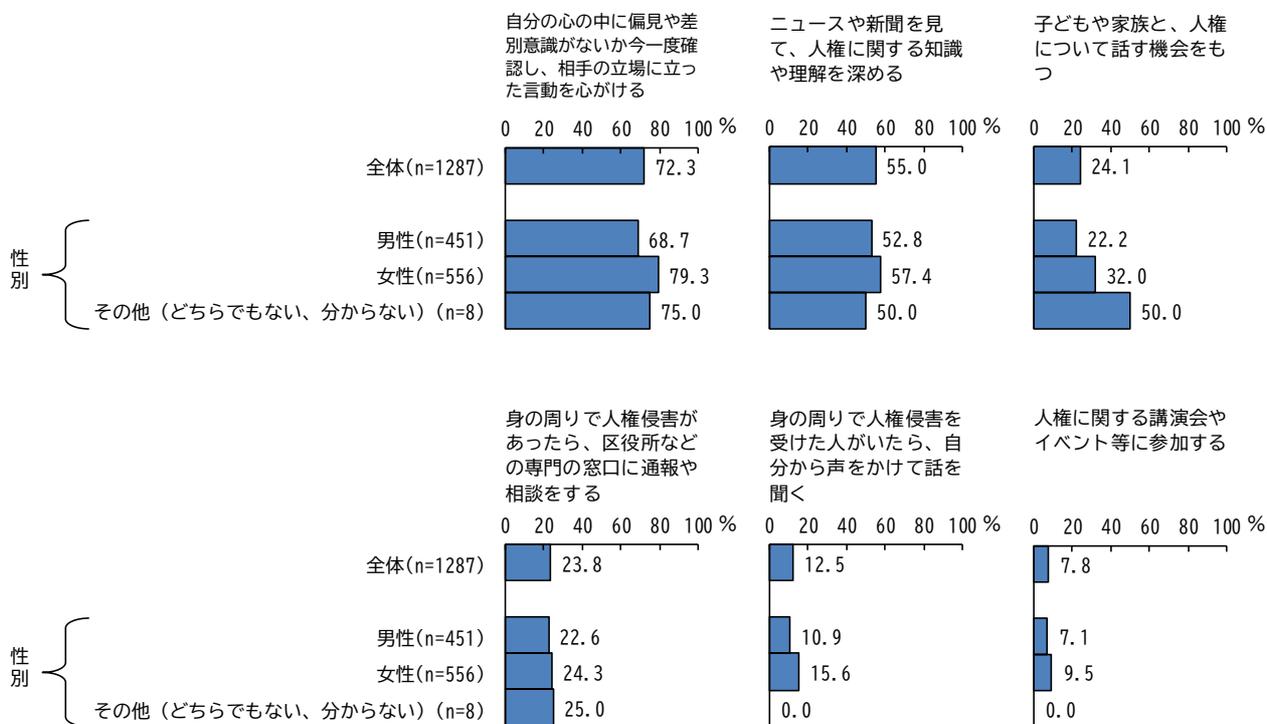
問 26 すべての人の人権が尊重され、多様性を認め合う社会を実現するために、あなた自身ができることはどんなことですか。(〇はいくつでも)



多様性を認め合う社会へ自身ができることについて聞いたところ、「自分の心の中に偏見や差別意識がないか今一度確認し、相手の立場に立った言動を心がける」(72.3%)が7割強と最も高く、次いで「ニュースや新聞を見て、人権に関する知識や理解を深める」(55.0%)、「子どもや家族と、人権について話す機会をもつ」(24.1%)と続いている。

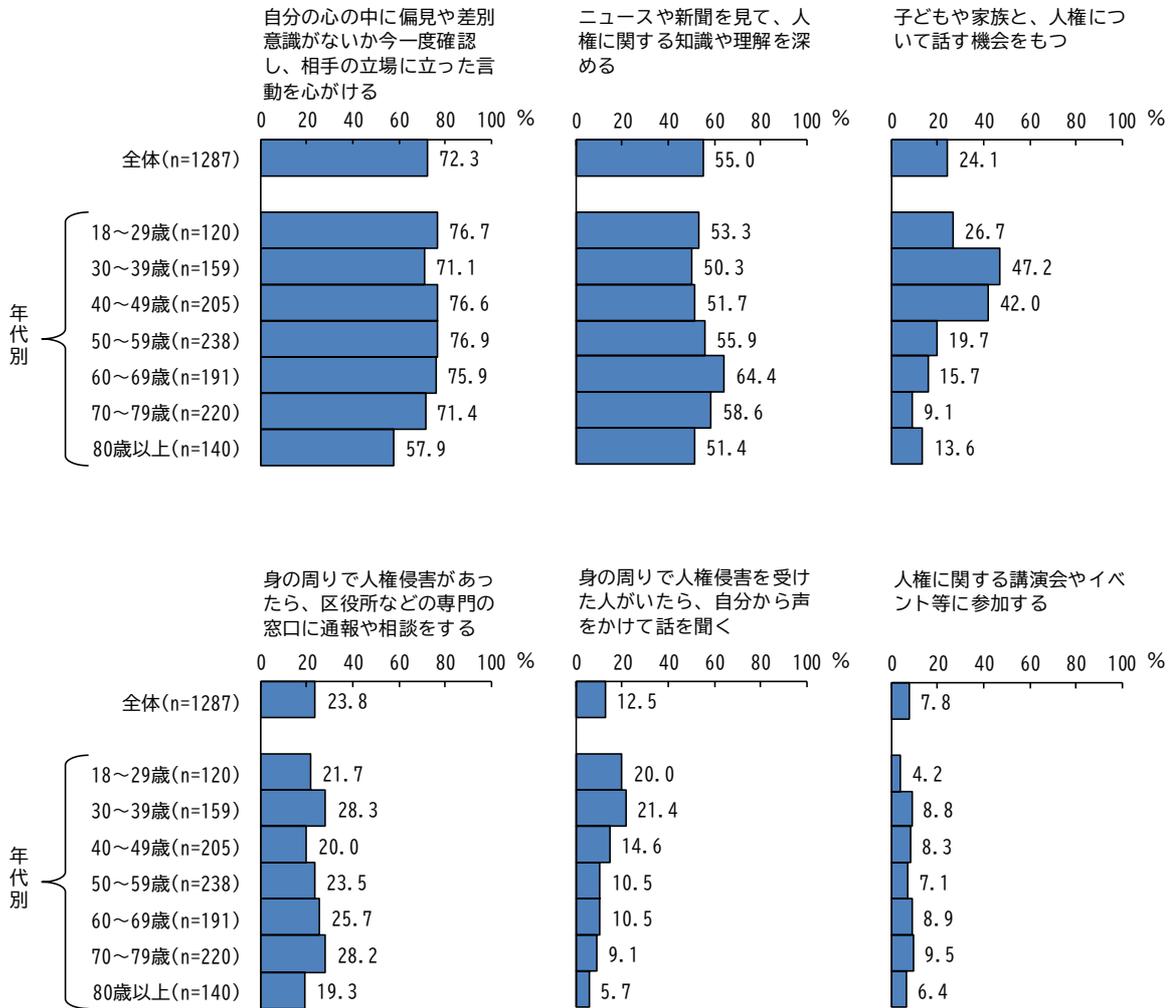
上位6項目を性別で見ると、「自分の心の中に偏見や差別意識がないか今一度確認し、相手の立場に立った言動を心がける」では、女性（79.3%）が男性（68.7%）を10.6ポイント上回っている。また、「子どもや家族と、人権について話す機会をもつ」では、女性（32.0%）が男性（22.2%）を9.8ポイント上回っている。

多様性を認め合う社会へ自身ができること（上位6項目） 性別



上位6項目を年代別で見ると、「子どもや家族と、人権について話す機会をもつ」では、30～49歳で4割を超えて高くなっている。また、「身の周りで人権侵害を受けた人がいたら、自分から声をかけて話を聞く」では、年齢層が低いほどおおむね割合が高くなっている。

多様性を認め合う社会へ自身ができること（上位6項目） 年代別



上位6項目をライフステージ別でみると、「子どもや家族と、人権について話す機会をもつ」では、家族成長前期（62.4%）が6割強と高くなっている。また、「自分の心の中に偏見や差別意識がないか今一度確認し、相手の立場に立った言動を心がける」では、家族成熟期（81.0%）が8割強と高く、高齢期（一人暮らし）（62.0%）が6割強と低くなっている。

多様性を認め合う社会へ自身ができること（上位6項目） ライフステージ別

